大会報告

クラブカップ ES 関東が制す！

クラブカップ 2003 / 世界選手権 2005 愛知プレイベント

木村佳司

今や日本一のリレーイベントとなったクラブカップ 2003。今年は世界選手権プレイベントの一環に組み入れられて開催された。
そんな中、クラブカップはES 関東が初優勝を遂げる。

ES 関東のウイニングラン。
2003 年は 2 月のクラブ対抗戦で優勝、7 月の有志クラブ対抗戦で優勝、
そして今回のクラブカップでの優勝と絶好調！

ES 関東初勝利！

裏山の誘導区間をダイスケが駆け下ってくる。会場の開成小学校の校庭で待ちわびるメンバーから歓声が沸きあがる。ES 関東の初勝利が確定的となった一瞬だ。そのあとはフィニッシュレーンをウイニングラン。小旗を振りながら優勝の確定を自らが祝った。

クラブカップ 2003 結果

1.	ES 関東クラブA	4:17:38
2.	OLP 兵庫 A	4:25:36
3.	Team 白樺 A	4:30:41
4.	みちの会 B	4:30:51
5.	ときわ走林会B	4:39:04
6.	渋谷で走る会 A	4:45:11

レースの流れ

ではここで成績表からレースの流れを再現してみよう。

第 1 走者

広島 OLC の吉田弘輝が快走してトップに立つ。続いて 50 秒遅れで OLP 兵庫の諏訪高典が 2 位。関西勢の活躍が序盤は目を引いた。

この時 ES 関東の柳沢貴は 18 位で 2 走にチェンジオーバーしている。すでにトップとの差は 7 分半。

第 2 走者

渋谷で走る会の安良和寿が快走。1 走時点で 4 位からトップに立つ。ES 関東はここで小林岳人を投入。全体順位を 9 位にじわりと引き上げる。しかしトップとの差は 10 分に広がっていた。

第 3 走者

ここまでじわじわと順位をあげてきた横浜 OLC が青木博人を投入。渋谷で走る会の羽鳥和重とでトップ争いを演じ、僅差で横浜 OLC がトップを奪う。

しかしその裏で ES 関東の小暮喜代志がそれを上回るタイムをマークしており、順位も 7 位まで上げ、トップとの差も 8 分半までに詰めてきた。ES 関東が反撃の狼煙を上げたのだ。

第 4 走者

4 走へのタッチ時点で 2 分差の 3 位につけていた OLP 兵庫の山本賀彦が快走しダントツのトップに踊り出る。

トップの横浜 OLC はここに女子選手・石川裕理を投入、順位は 7 位に後退する。渋谷で走る会も女子選手・志村直子を投入。それでも 2 位にふんばるが、OLP 兵庫に 5 分半の大差をつけられてしまう。

その渋谷で走る会の 2 秒後には東北大学+宮城学院mix チームの斉藤城樹が迫っている。その 23 秒後にチーム白樺の番場洋子、さらにその 22 秒後には ES 関東の広江淳良が迫っている。ES 関東はトップとの差を 6 分半にまで縮めてきた。

クラブカップではこうしたオジサン選手.vs.女子選手の対決が行われる。平坦なテレインの場合は互角に戦えるが、今回のような急峻なテレインでは男女の筋力の差が現われてしまっている。

第 5 走者

チーム白樺の女子選手・元木友子が快走を見せ、OLP 兵庫との差 6 分半をひっくり返す。ES 関東も女子選手・渡辺円香を投入。元木友子と並ぶ快走を見せる。OLP 兵庫の走者は河泰鉉。ここでは女子選手.vs.ベテラン男子選手の争いに女子選手が勝った。

第 5 走者が終わって､1 位チーム白樺、2 位 ES 関東、3 位 OLP 兵庫。その差は 10 秒以内にひしめき合う接戦となった。

4 位にはこれもまた女子選手・田島利佳の力でみちの会が 5 分差まで詰めよってきた。

会場に設けられたスペクテーターズコントロール。すべてのランナーは一度会場内のコントロールをパンチして再び後半のループ目指して森に入って行く。中にはここでチームメイトより給水を受ける者もいる。

第 6 走者

7 人リレーで競うクラブカップ｡その戦いは実に長時間に及ぶ。そんな中でも第 5 走者が戻ってくるころには上位の顔ぶれはだいたい見えてくる。

このあたりからがクラブの最後の力の見せ場所。各チームともエース級の選手を投入してくる。

ここで ES 関東が加藤弘之を投入して初めてトップに立つ｡OLP 兵庫は岩倉毅を投入するが 5 分差をつけられてしまう。チーム白樺は元木悟を投入するが、後半のループで失敗しているうちに、みちの会が吉田勉を立てて 3 位に浮上してくる。

ここまで上位で戦った横浜 OLC はここでコントロール飛ばしが発覚し、優勝争いから脱落してしまう。

第 7 走者

いよいよアンカー。ES 関東はエース山口大助を投入｡5 分を追って OLP 兵庫の大島真謙､9 分を追ってみちの会の久野雄介、10 分を追ってチーム白樺の許田重治が発進する。しかしダイスケをこの差で追うのは各チームともつらい。

もはやダイスケがミスをするのを待つしかない状況となっていた。しかしそこをミスせずにきっちりと帰ってくるのがエース。期待通りに最初にフィニッシュに姿を現わしたのは、ES 関東の山口大助だった。

2 位は OLP 兵庫、3 位はチーム白樺の許田が意地を見せた。

ベテランカップはサンスーシ

伝説の男が帰ってきた。その名は杉山隆司。日本で最初に世界選手権に出場し、ロングディスタンスでは日本人最高順位にまで上り詰めた男だ。現在サンスーシに加入し、オリエンテーリング活動を再開している。

サンスーシはこの杉山、尾上の両エースを軸に田代、大場のメンバーをそろえて優勝をかっさらった。前回優勝の愛知 OLC は残念ながら途中で失格になっている。そのかわり、2 位には三河 OLC、3 位もほのくにと地元も健闘を見せた。

1.サンスーシ B	2:53:28
2.三河 OLC-V	3:23:19
3.OLC ほのくに	3:31:03

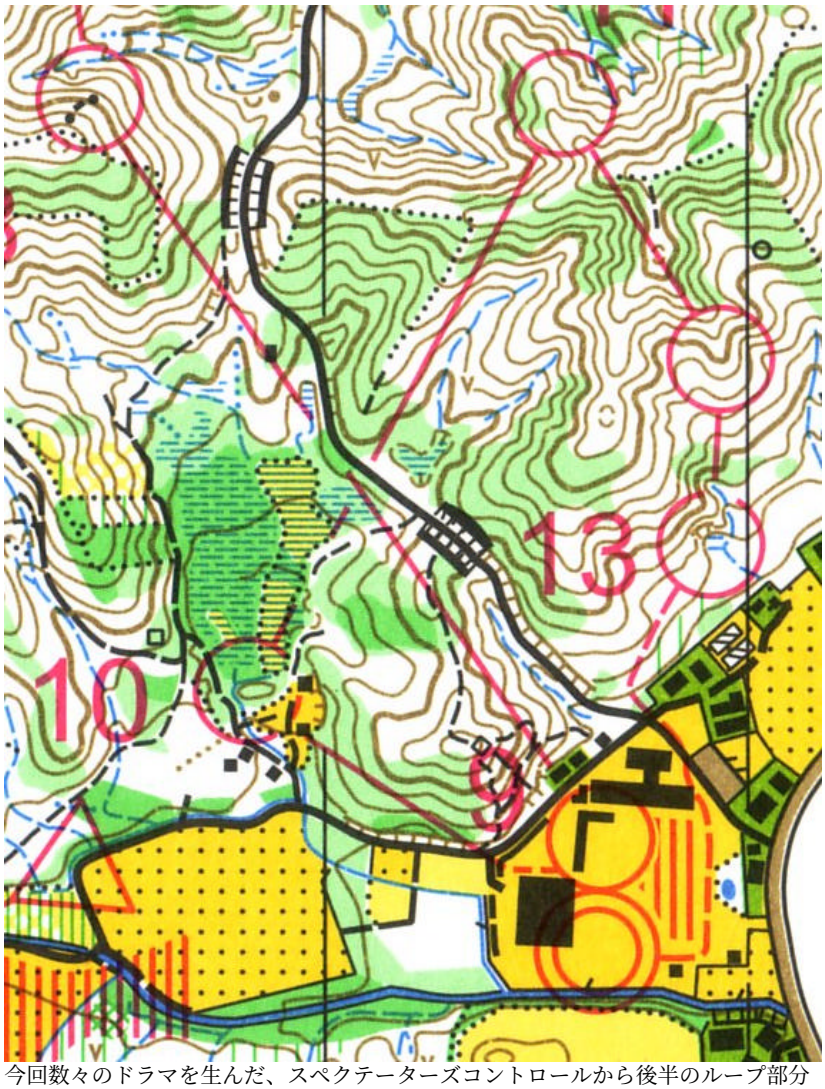
クラブカップは誰のために？

お盆の時期にも関わらず、今回のクラブカップには 950 名と多くの参加者があった。これはクラブカップのステータスがすでに根付いているからだろう。

しかし国内の数多くのクラブが目指す競技会として問題がなかったわけではない｡1 走の 1 番コントロールで大渋滞になってしまったこと、テレインが急峻なため、下位チームには厳しいコース設定となってしまったことなどなどがある。これらはいずれもテレインの制約やその他運営の制約により生じてしまっている。

クラブカップの価値を作るのは参加者一人一人の意識である。しかしより多くの参加者に満足していただけるレース設計はかなり難しいものとなっている。今年は今年なりの制約の中でクラブカップは行われた。来年はまた来年の制約の中で最大限満足できるクラブカップが提供されることだろう。

（木村佳司）



今回数々のドラマを生んだ、スペクテーターズコントロールから後半のループ部分